

両眼傾き対比の時空間特性

原田, 新也

<https://doi.org/10.15017/1931675>

出版情報：九州大学, 2017, 博士（心理学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：



氏 名	原田 新也					
論 文 名	両眼傾き対比の時空間特性					
論文調査委員	主 査	九州大学	准教授	氏名	光藤	宏行
	副 査	九州大学	教授	氏名	中村	知靖
	副 査	九州大学	講師	氏名	山本	健太郎
	副 査	九州大学	教授	氏名	趙	世晨

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文では、両眼傾き対比という視覚現象に着目し、空間的に離れた位置に存在する傾き知覚のための手がかりを視覚系がどのように統合しているのかを明らかにすることを目的とした 5 つの実験を報告している。第 1 章では、両眼傾き対比の説明に関する既存の理論である奥行き標準化理論と傾き推定理論を紹介している。第 2 章では、傾き対比は局所的な標準化に基づいて生じることを心理物理学的手法を用いて明らかにした。第 3 章では、短時間提示場面での傾き対比を測定し、傾き推定理論からは予測できない結果を得た。第 4 章では総合考察を行い、実験結果に基づいて、手がかり統合と標準化についての統合的な仮説的モデルを提唱した。

以上のように本論文は、両眼傾き対比についての詳細な実験的検討を行い、その生起要因を明らかにするとともに視覚系の処理過程について従来の理論を発展させるアイデアを提示した。さらに本研究の知見は VR 空間等におけるよりリアルな 3D 体験を提供するための技術へと応用できる可能性を提示しており、応用的な見地からも優れた研究であると言える。よって、本論文は博士（心理学）の学位に値するものと認める。